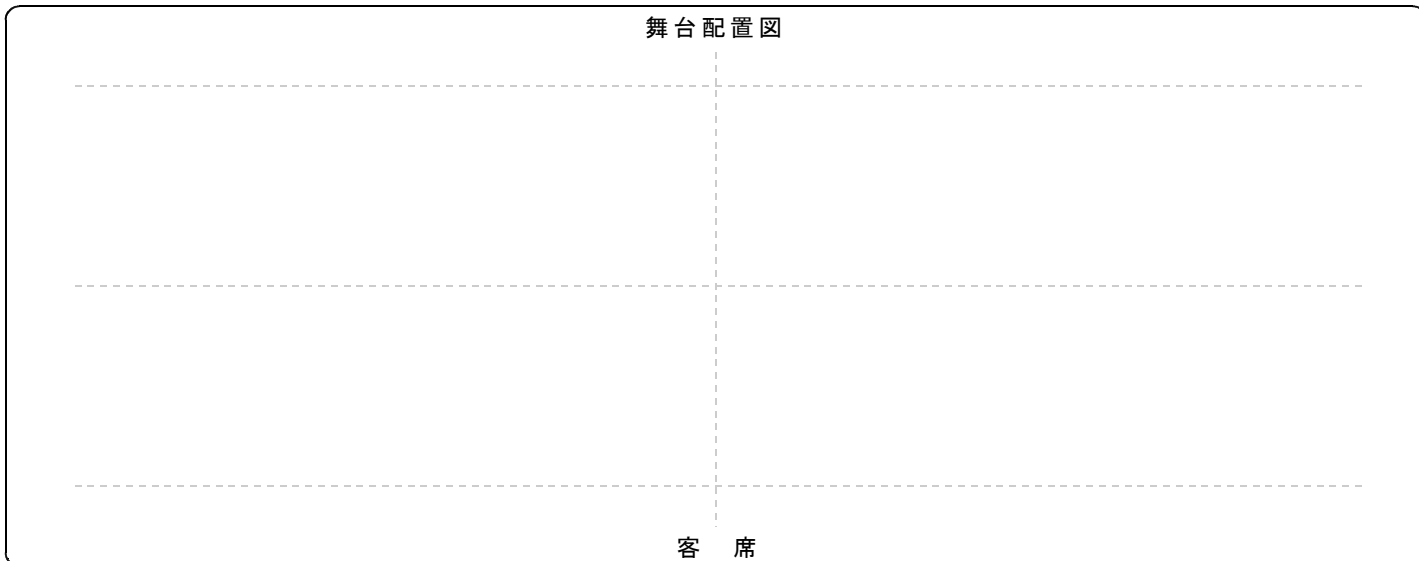


No.	三つのパラフレーズ	演奏者数	演奏時間
-----	------------------	------	------

舞台配置図



客 席

表示記号一覧	一 箏	=17絃	+三絃	0 尺八	≠ 他楽器	*マイク	□ モニター	□ 毛氈	W 屏風
立 奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハインター 枚
座 奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44				編成：1箏				2箏					
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾	
1 箏						F					F			1箏一と2箏二は同音 (D)
			A#			E		A#			E			
	D	G	A	C	D	D#	G	A	C	D	D#	G	A	
			G#	A#				G#	B					
									A#					
平調子より四九一音↑ 一は五の乙														
2 箏			F			C		F			C			
			E			B		E			B		E	
	C	D	D#	G	A	A#	D	D#	G	A	A#	D	D#	
					G#									
本雲井調子 一は六の乙														
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾	

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

作曲年 1973年 委嘱者 NHK 構成 箏 I・II 時間 14分 出版楽譜 前川出版

解説 第一章「組歌による」本来の箏曲における“組歌”。現代の目からはきわめて地味で唄の伴奏的な役割をなす単純な音型の箏の手法をモチーフとし、瞬間的転調と移調により、古典の響きを多角的に屈折させつつ、前面に押し出している。第二章「楽の手による」おおらかにして優雅な“楽”の手を五段にまとめ、五段変容ともいえる小曲。第三章「輪舌による」段物の中でもとくに力強さと華やかさを持つ輪舌から、“搔手”と“すくい爪”のテクニクを現代的に発展させた楽章。1973年作曲。[作曲者] 収録媒体 箏 沢井忠夫作品集5 (VZCG-582) 邦楽演奏家Best Take 沢井忠夫 (VZCG-120) 沢井忠夫 super sound CD vol.2 (DA-2100)